

外国人の子どもたちの教育支援を通じた多文化共生

1 現状と課題

- 文部科学省が2年に1度公表している「日本語指導が必要な児童生徒」に関する調査によると平成30年度の時点で、全国の公立小・中学校、高校、特別支援学校や中等学校に日本語がわからない子どもが51,126人在籍していることが明らかとなっており、この内の5分の1にあたる10,989人の子どもたちが、学校で日本語指導等の支援を受けられていない。
- 茨城県では、現在71,125人(令和元年度12月時点)の外国籍在住者がおり、上位10市町村の中に県西管内の5つの市(常総市『第2位』、古河市『第4位』、筑西市『第7位』、坂東市『第8位』、結城市『第10位』)がランクインしているなど、大きな課題となっている。
- 外国人の子ども達に、学校や地域で日本語を教える人材が少ないことや、指導する時間が少ないことで言葉の壁がででき、友だちが作れず孤立し、また学校の勉強についていくことができない状況に陥ってしまうという課題がある。
- 言葉の壁は日本語だけにとどまらず、特に幼少期に来日したり、日本で生まれ育った海外ルーツの子どもたちの場合、家庭の中だけでは、十分な量の母語に触れる時間が取れなかったり、母語にも不安を抱えることも少なくない。

2 期待される効果

- 外国人の子ども不就学や学習の遅れ等が解消できる仕組みの構築
 - ・ 県西管内を中心に、地域全体の日本語教育ボランティアの育成し、外国人の方への「支援者の育成」と「学びの場の提供」を両輪で進め、居住する外国人の方々を包括的に支援できる体制を構築し、外国人の子ども不就学や学習の遅れ等を解消する。
- 多様な日本語支援ボランティアの育成と、活躍の場の推進
 - ・ 日本人の日本語支援ボランティアの育成及び、サポートされる側であった外国人の方々の習熟度に合わせて、市町小学校等への日本語支援ボランティアとしての活躍場を提供し、子ども達への日本語指導の強化を図る。
- 地域団体との多文化共生社会実現へのに向けた協力体制の強化と拡充
 - ・ 夜間中学をサポートできる人材育成や日本語教育ボランティアの育成事業等、県西生涯学習センターにより培われた、人材やネットワーク、関係機関との連携を強化・拡大することで、外国とつながる子どもの就学支援やキャリア支援、自治体や学校への通訳派遣・翻訳等の取組を促進する。

3 事業実践方法

- (1) 概要(目的)

「多文化共生社会 機運の醸成に繋がる地域づくり」を目的に、多様な主体を活用した会議等を複数回開催するとともに、課題の選定や目標の設定、活動内容や具体的な実践方法を決定する。

また、下記の課題の解決に向けた活動においても、専門家の意見聴取やワークショップ、事例調査等、様々な方法により取り組む。

 - 日本語教育支援が出来る人材育成
 - 市町小学校等への日本語教育支援人材の派遣(日本語指導加配教員不在校を中心に)
 - 地域の公民館等での日本語教育支援教室等の設置(学びの場の提供)
 - 多文化・地域交流事業の開催
 - 保護者等への相談サポートの充実(心のケア・心のサポート機能の充実)

(2) 対象者 県民

(3) 委員構成

茨城 NPO センター・コモンズ	茨城 NPO センター・コモンズ
水海道国際交流友の会	石下国際交流友の会
JICA 茨城デスク国際協力推進員	日本語教師
つくば市コーディネーター	茨城大学准教授
県西教育事務所主任社会教育主事	

(3) 具体的な取組内容

ア 会議・交流会等

期日	内容	出席者等	備考
R3 8/24	必要な支援の抽出 支援者像の明確化 必要な学び・知識	実行委員 講師 協力者	新型コロナウイルス感染症対策により、文書・個別・オンラインを活用
R3 9/30	講座の内容・決定	実行委員 講師 協力者	新型コロナウイルス感染症対策により、文書・個別・オンラインを活用
R4 2/28	理想と現実 振り返り 指導方法の改善・教材開発	実行委員 講師・受講生 協力者	受講生も参加し、より具体的な実践や地域課題解決へ向けたネットワークを構築
R4 3/7	恒常的に行う組織作り 学校への接続・連携方法とネットワーク作り	実行委員 講師・受講生 協力者	受講生も参加し、より具体的な実践や地域課題解決へ向けたネットワークを構築
R4 6/21	必要なスキルの習得と今後の活動内容の見直し	講師・受講生 実践者・協力者	これまでの活動内容を、分析・評価し、継続活動へ向けた課題と解決策を実施
R4 10/11	活動内容とネットワークの拡充への方策と連携先の発掘	講師・受講生 実践者・協力者	これまで以上に、他団体の活動や先進的事例を取り入れ、アフタースクールやプレスクール以外の活躍の場を拡大し、多様な方の支援ができる体制を構築



交流会の様子①



交流会の様子②

イ 研修・ワークショップ・講座等

期日	内容	出席者等	備考
R3 8/24	必要な支援の抽出 支援者像の明確化 必要な学び・知識	実行委員 講師 協力者	新型コロナウイルス感染症対策により、文書・個別・オンラインを活用
R3 9/30	講座の内容・決定	実行委員 講師 協力者	新型コロナウイルス感染症対策により、文書・個別・オンラインを活用
R4 2/28	理想と現実 振り返り 指導方法の改善・教材開発	実行委員 講師・受講生 協力者	受講生も参加し、より具体的な実践や地域課題解決へ向けたネットワークを構築
R4 3/7	恒常的に行う組織作り 学校への接続・連携方法とネットワーク作り	実行委員 講師・受講生 協力者	受講生も参加し、より具体的な実践や地域課題解決へ向けたネットワークを構築

R4 6/21	必要なスキルの習得と今後の活動内容の見直し	講師・受講生 実践者・協力者	これまでの活動内容を、分析・評価し、継続活動へ向けた課題と解決策を実施
R4 10/11	活動内容とネットワークの拡充への方策と連携先の発掘	講師・受講生 実践者・協力者	これまで以上に、他団体の活動や先進的事例を取り入れ、アフタースクールやプレスクール以外の活躍の場を拡大し、多様な方の支援ができる体制を構築



講座の様子【子どもの心を開き言葉を楽しく学ぶ手法】

ウ 実践

期日	内容	出席者等	備考
R4 3/9	プレスクールでのボランティア活動 ・ひらがな、カタカナの練習 ・学校生活で使う単語や会話	受講生 3名	相手の文化をしっかりと理解することで、こちらの考え方や常識を押しつけない
R4 3/10	プレスクールでのボランティア活動 ・ひらがな、カタカナの練習 ・学校生活で使う単語や会話	受講生 4名	教えるのではなく、心の寄り添い、信頼関係を構築する
R4 3/16	プレスクールでのボランティア活動 ・ひらがな、カタカナの練習 ・学校生活で使う単語や会話	受講生 2名	表情を豊かに、言葉で伝えること以上に、仕草を大切にする
R4 3/19	保護者向けに入学準備についての説明・相談 学校制度や手続きについて、また準備するものなどを具体的に説明	受講生 3名	説明・相談で使用する資料を把握し、保護者の不安を取り除くよう、説明の仕方に配慮し、事務的にならない。
R4 通年	外国人保護者の日本語支援 学校文書の翻訳作業支援	受講生 1名	茨城 NPO センター・コモンズでスタッフとして、活動している。地域としてのボランティアとして活躍できる方を増やす必要がある
R4 通年	コモンズアフタースクールでの日本語指導ボランティア、プレスクールでのボランティア活動 外国人へ向けシェアハウスのボランティア活動	受講生 14名	今後は、茨城 NPO センター・コモンズの活動への支援から、新たな支援活動へシフトし、より多くの、そして多様な外国人を支援できる体制を構築する